

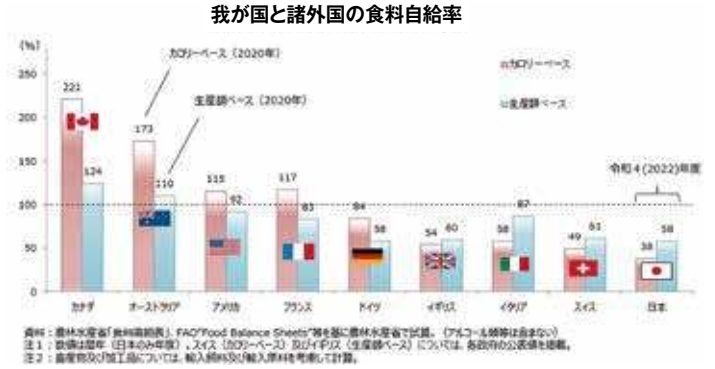
# 世界で最初に飢えるのは日本!?

## 本気で食料自給率向上を

### ◆今、日本の食料自給率は38%

諸物価、食品の高騰も収まりません。ほんとに私たちの食生活は守られるの?  
鈴木宣弘東大教授からお話を聞き、学びました。

※自給率38%には種や肥料の輸入依存は考えられていない。  
種…90% 肥料の原料…99%が輸入  
これらを加味すると実質の食料自給率は、9.2%に(鈴木教授試算)



### ◆どうしてこうなってしまったのか

戦後、「食生活改善」として、数々の「自由貿易協定」を通して、アメリカの余剰農産物が日本に大量に持ち込まれた。「食料は、安い国から輸入すればいい」という政策、また自動車の輸出の利益のために農と食を差し出す政策(農産物関税撤廃)になり、輸入急増と国内生産の減少が加速し、自給率の低下が進んだ。

### ◆気候変動などで世界も日本も食料の供給が不安定に

そのうえ、世界の穀倉だったウクライナの戦禍で輸出されず食料の奪い合いが生まれている  
日本では、肥料、飼料、燃料、資材高騰など深刻な事態でも、改善の方向なく、不測の事態には芋を作るようにと戦時中のような指針が。  
日本の穀物備蓄は1.5~2か月分。輸入が止まれば飢えるのは確実。  
中国…14億人が1年半食べられるよう大增産、買占めも。  
インド…「外国に売ってる場合じゃない」と米・小麦の輸出規制。

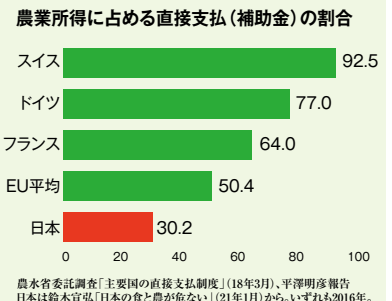
### ◆どうすれば、安定して食料が確保できるのか

- 国による農家への支援を手厚く  
日本では、生産者支援も消費者支援もほぼゼロ。  
コメ1俵の生産に12000円かかり9000円で売る。その差額を補填するなら農家は助かり、しかも3500億円できる。  
今、農家の時給は10円。「コメ作ってコメ食えねえ」が実態。  
世界一保護のない状態で農家は踏ん張っている。手厚い補償で輸入に依存せず、安全・高品質な食料供給へ。
- 消費者の意識・行動がカギ  
私たち消費者が、安くても危ない食品を避け、地元の安心・安全な食品を買うことで、自然環境や健康を大切にする生産者を応援することができる。日本の農と食と命を守ることにつながる。

### ◆まとめ

日本は、「国民の命を守る」ことに真剣ではないと感じました。他の先進国に比べ、農業への援助がものすごく少ないことも。このままでは、食料が買えない事態になり「飢餓に陥る」(NHK報道)ことに危機感を持ち、私たち消費者が声を上げる時だと思いました。

農林水産物輸入額  
1999年:7兆591億円  
2022年:13兆4224億円  
小麦 85% 大豆 94%  
が輸入  
欧米で禁止されているホルモンの農薬が日本向けの生産物に使われている



新日本婦人の会(略称新婦人)とは  
女性のねがいで行動する国連NGOの女性団体です。1962年に平塚らいてう、いわさきちひろらの呼びかけで創立。個人参加では国内最大の女性団体で、週刊の「新婦人しんぶん」を発行。食と環境にも大きな関心を持ち、学習・行動を。学校給食費無償化や体育館へのエアコン設置など運動し実現。平和の2署名にもとりくみ楽しいサークル活動も多彩です。